

小学4年 国語「ぞろぞろ」

柏市立富勢小学校

中山 友紀

1. 自己調整を意識した授業づくり

課題

昨年度の柏市質問紙調査から、柏市4つの C の中の、「計画」、「振り返り」、「挑戦」、「自己肯定感」に課題が見られた。本校の最上位目標「挑戦し、やりぬこうとする子」を目指し、子どもを主語にした、好奇心を刺激する単元計画を練ることを手立てとして取り組んできた。

ねらい

本単元では、「落語のおもしろさを世界に伝える」という活動のゴールに向かって、児童が自分の表現力を動画等で確認しながら、その力を高められるようにする。また、このねらいが、総合的な学習の時間の「安全マップ作り」(仮)の際の発表につながることを意識させる。

児童主体の授業とするための準備・環境設定

- ・地域に在住の落語家さんとの関わりや、発表相手(台湾の小学生)を設定することで、挑戦の意欲を高める。
- ・児童自身が落語の演目や目標、練習方法、誰と取り組むか、どこで練習するかを決められるようにする。
- ・落語家レベルアップシートや練習計画表など ICT ツールを活用することで、見通しをもたせ、計画を立てたり、振り返ったりする機会をつくる。

これまで支援してきたこと(放任とならないための手立て)

- ・他の教科でも、ルーブリックを示し自己決定の場面を設定したり、学習の流れをスライド配付して、見通しがもてるようにしてきた。
- ・児童の活動時間は、机間指導を行い、進捗の確認やつまづいている児童への声かけを行う。

支援のポイント

- ・人前での発表や覚えることに苦手意識がある児童には、台本の長さを調節したり、友達と一緒に練習するという選択肢を用意したりすることで、安心材料を増やす。

本時で設定したレベル

| 子供へ委ねる段階 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|-----------|----------------|----------------------|------------------------|----------------------|
| 課題 | 教師が課題を決める | 子供に選択肢から選ばせる | 子供が選択肢をつくり、選ぶ | 子供が自分で課題を決める |
| 過程 | 教師が意識して過程を回す | 過程の一部を子供が回す | ほぼ子供の意思決定で過程を回す | 全て子供の意思決定で過程を回す |
| 形態(個別・協働) | 教師が誰とどう学ぶかを定める | 過程の一部で誰とどう学ぶかを子供が決める | 過程のほぼ全てで誰とどう学ぶかを子供が決める | 全ての過程で誰とどう学ぶかを子供が決める |
| ツール | 教師が何をを使うか決める | 子供に選択肢から選ばせる | ほぼ子供が自分で使うツールを決める | 子供が自分でツールを決める |
| 空間 | 教師が学びの空間を決める | 子供に選択肢から選ばせる | ほぼ子供が自分で学ぶ空間を決める | 子供が自分で学ぶ空間を決める |
| ペース | 全員同じペースで学ぶ | 一部学びたいペースで学ぶ | 子供がほぼ学びたいペースで学ぶ | 子供が学びたいペースで学ぶ |

学習計画案

| 日付 | 時 | 学習内容 |
|--------------|----|------------------------------|
| | 0 | 「ぞろぞろ」の音読を各自が録画 |
| 6/11 水 | 1 | オリエンテーション(学習の見通しを持つ) |
| 6/11 水 | 2 | 「ぞろぞろ」教科書読み取り①(題名・作者・落語について) |
| 6/12 木 | 3 | 「ぞろぞろ」教科書読み取り②(ぞろぞろの内容の読み取り) |
| 6/13 金 | 4 | 落語家さんの落語を聞く |
| 6/16 月 | 5 | ゴール設定(ループリック) 練習①(台本を読む等) |
| 6/17 火 | 6 | 練習②(自主練習中心) |
| 6/18 水 本時 | 7 | 練習③(練習の見せ合い) |
| 6/19 木 | 8 | 練習④(まとめ) |
| 6/20 金 | 9 | 台湾の小学生とオンライン交流会(発表) |
| 6/23 月 | 10 | 学習の振り返り・初めの動画との比較 |

2 実践の流れ



富勢小学校 4年生 国語

落語 ぞろぞろ



単元のゴール

ぞろぞろの面白いところを
友達と伝え合おう!

落語の練習を通して、
話す時の表現力アップ!

もしも台湾の小学生から
笑いをとることができたら...



台湾

台北市 三興小学校



授業内容

- 落語とは「ぞろぞろ」の面白いところは？はじめやここあさんの落語
- 目標を決めて練習する
何を？ だれと？
どうやって？
どこで？ どれくらい？
発表・ふり返り
台湾三興小学校との交流

評価

| 落語家 Lvアップシート | | | |
|-------------------------|------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 演者の表現方法 | か、見聞い みるらい | A、前座 ぜんざ | ち、真打 しんうち |
| 1 声の高さを上げたり下げたりできる | 役によって声の高さを少し変えられる | 役によって声の高さをじぶんに変えて使い分けている | 役によって声の高さをじぶんに変えてわかりやすく伝えている |
| 2 声の強さを弱くしたり強くしたりできる | 気持ちのこもった場面などで声の強弱が少しある | 強く言うところと弱く言うところを考えて工夫しているのがある | 声の強弱を使って話に引き込ませている |
| 3 顔の振り方を大きくしたり小さくしたりできる | セリフとセリフの間に時々、顔をあげている | 顔の長い(短い)を意識して顔している | 顔の振り方がよく場面のあもしろさを引き出している |

落語家をめざして練習し、レベルアップしよう②
(全4回)

- 0 昨日のふり返りの共有
- 1 めあての確認・練習計画表 (5分)
- 2 練習 (30分)
- 3 ふり返り (5分) ※教室で
- 4 今日のさつえい・動画はりつけ (家で)

6月17日(火)のふり返りから

繰り返しよんで半分覚えられました。また、明日友達チェックしてもらいます。

次からは、声の強さを弱さではなく高さを意識したいと思います。次の練習には声の高さの真打ちをとりたいです。

昨日とくらべて声の高さが変えられたので次はちょっと難しいものに挑戦してもっと上手になりたい!

今日は、声の高さは、調節できたので、次は、間とり方を面白くするを頑張りたいと思います。

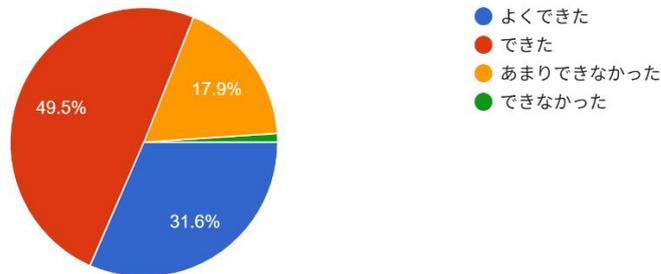
今日は、スムーズにすすめたのでやりわりもさめられました。上手だった人は、練習がんばりました。なぜかという、声の高さ、ひくさがうまかったからです。



【児童の変容】

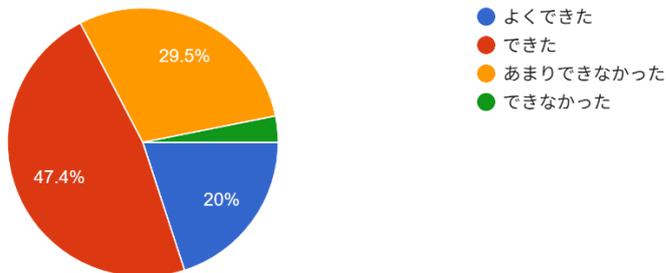
1 声の強さ(弱さ)を使い分けることができましたか。

95件の回答



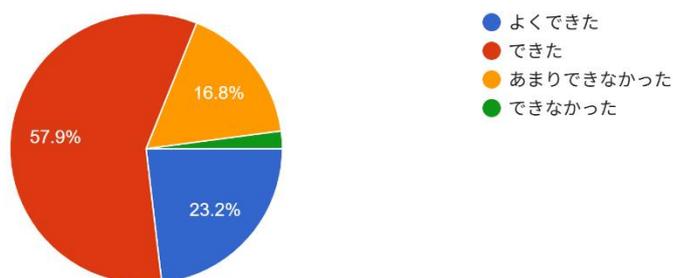
2 声の高さ(ひくさ)を使い分けることができましたか。

95件の回答



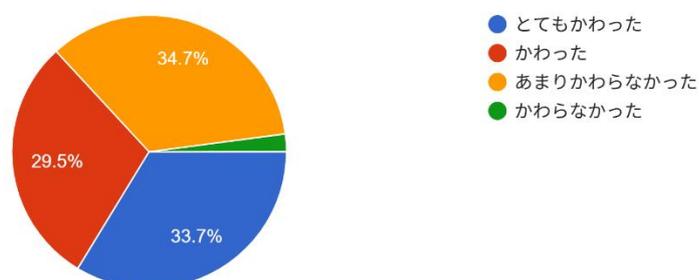
4 間の取り方をいしきて話ことができましたか。

95件の回答



学習のはじめのころとくらべて、話し方や声の出し方はかわりましたか。

95件の回答



【成果と課題】

アンケートから、登場人物の感情や場面に応じて声の高さや強弱を使い分ける表現力が身についたと認識している児童が多い。間を意識することで、「聞いている人にわかりやすく伝わっている」「面白さが変わる」「リアルな感じが出る」など、聞き手への伝達力や表現の工夫が理解できている。落語の学習を通して、話し方や声の出し方が「とても変わった」「変わった」と回答した児童が全体の約3分の2に上り、多くの児童が自己の成長や表現技術の向上を明確に実感できたといえる。

課題は、声の高さ(低さ)の使い分けが「あまりできなかった」という回答が一定数見られた。声の強弱や間の取り方に比べて、役や感情に応じた声の高低差の表現は難易度が高かったようだ。児童にとっては、表情や動きなどの身体的な活動を取り入れた方がよりよい表現につながったかもしれない。

単元の振り返りの記述をまとめると、どんな力がついたと思うかとの質問に、「登場人物やその時の感情に合わせて、声の高さや強弱を使い分け、間の取り方を意識できるようになった。」「棒読みではなく、大きな声で相手に伝わりやすい話し方になった。」「話す途中で間を取ることを意識し、セリフ間のテンポや区切りを調整できるようになった。」という意見が多かった。

自由進度的な学習の形態の振り返りとしては、「グループで協力して進めることができたのがよかった。」「友達や先生チェックで間違いに気づき、読むことが上達した。」という意見が多かった。一方で、「声を出す面白さがふざけにつながってしまった」「時間を意識しないで練習してしまった」という意見もあった。

【実践を終えて】

以上のことから、自由進度的な学習で大切なことは、ゴールを明確にした単元をデザインすること、児童の学びの状態を適切に見取りフィードバックしていくための技術を高めること、学びに向かう態度を日々育てていくことだと実感した。